

2019年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000359	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	株式会社メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう万田		
所在地	(〒254-0913) 平塚市万田55-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成31年4月22日	評価結果 市町村受理日	令和1年7月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行を留めることはできないので、少しでも進行が緩やかになるよう、脳トレを意識したゲームをしたり、レクリエーションを取り入れています。また、1か月に1回、外部の講師をお招きして、3B体操や認知症予防音楽療法を取り入れています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年5月23日	評価機関 評価決定日	令和1年7月2日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道線「平塚」駅北口からバスで10数分、「南河内」バス停から程近い場所にあります。周辺は住宅のほか、学校、公園、商業施設などもあり、暮らしやすく静かな環境です。建物内に同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。外出は「花菜ガーデン」「平塚市総合公園」「七夕祭り」など平塚市の地域資源を積極的に活用しています。

<優れている点>

利用者の何気ないつぶやき、傾聴を心がけた会話からこぼれた言葉などを「つぶやきノート」に記載したり、「お客様の声」として掲示したりして共有を図り、ケアプランへの反映や、イベントなどに活かしています。事業所独自のアンケートからの家族の意向に関しては、結果を集計し、それぞれの意見・要望に対する回答、改善策などを丁寧にフィードバックしています。開設から2年目の新しい事業所です。理念・基本方針・行動指針に基づいた根拠のある介護の実践のため、管理者のリーダーシップの下、全職員で取り組んでいます。

<工夫点>

法人内の定期研修に出席した職員の「事業所で伝えたいこと」を抽出し、事業所内プチ研修を行うこと、毎月事業所周辺(道路・公園など)を掃除して近隣との関係作りに活かすこと、年間の事業計画を具体的に立てることなどで、サービスの向上に繋げていこうとしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	くすのき

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアの掲げている理念そのものが 地域密着型を意識してつくられた理念です。会社理念は、ミーティングの前にスタッフ全員で唱和しています。時折、理念について、ミーティング内で、行動指針を取り上げて話をすることがあります。	法人の理念・基本方針・行動指針に基づいた事業所の年間の抱負を設定しています。利用者はかけがえのない存在とし、笑顔の時間作りを念頭に実践につなげています。ミーティング時には、理念・基本方針・行動指針を唱和し、共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入している。回覧板等は、利用者様が興味を持ちそうな内容があれば、適宜、回覧をしている。	地域の回覧板や近隣に住む職員からの情報を得て、「敬老の日の集い」や「絆まつり」などに参加しています。ギターや3B体操（ボール、ベル、ベルターを使用する健康体操）のボランティアとの交流もあります。毎月事業所周辺（道路・公園など）を掃除することで、近隣との関係作りに活かそうとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	包括支援センターからの紹介や、通りすがりの方から、介護についての相談を、受けることが多くなってきています。また、地域の学校の生徒さんの職業体験の実習の場として、利用していただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて参加してくださったご家族からの要望等を踏まえて、サービスに取り組む事例がありました。例としては、「歩行する機会を多く作ってほしい」との内容に対して、朝の体操のあと、フロア内を歩行する運動をとりいれるようにしました。	年6回、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に開催しています。事業所の活動・事故・今後の予定などの報告後意見交換、質疑応答をしています。家族の意見から、歩行運動を取り入れ、利用者の身体機能の維持・向上を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	開所してわからないことが多く、平塚市役所の介護保険課の担当者の方には、運営について、色々と聞いたり、ご指導を受けたりしています。	開設から日が浅いこともあり、必要に応じて市の介護保険課へ出向いたり、電話で連絡を取り、相談、助言を得るようにしています。困難事例に関しては高齢福祉課や地域包括支援センターと連携を密に図り、利用者の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠しておりません。フロア入り口は施錠していますが、利用者様がご自分で開けることが出来るタイプのものです。	法人の年間計画に基づいて研修を実施し、身体拘束をしないケアについて意識の向上や、振り返りの機会としています。研修は、基本全職員参加としています。ミーティングでは身体拘束や虐待について3ヶ月ごとに話し合っています。日中の玄関の施錠はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束および虐待については、定期的にミーティングにて学習する機会を設けている。また、内部研修においても、毎年取り込んで、学びの機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所の職員が学んだり、それらを活用できる仕組みは作っていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をとり説明をして、納得していただいた後、署名をいただいている。また、説明後、「何か補足事項はありませんか?」「わかりづらいところはありますか?」と聞いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回実施するアンケートにおいて、率直なご意見を聞き、改善につなげています。	面会時、「お客様の声」用紙、必要に応じた電話など家族から意見要望を聞く機会を設けています。その他年に1度家族に向けたアンケートを実施しています。結果を集計し、それぞれの意見・要望に対する回答、改善策など丁寧にフィードバックしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ミーティングを実施して、職員の意見を聞いたりしている。また業務改善については、フォーマットを作成し、誰もが気軽に、記入しやすいようにしている	毎月のミーティングで職員の意見・要望を聞いているほか、いつでも自由に記載ができる書式を用意し、業務改善を募っています。管理者との定期的な面談のほか、アンケートを実施し、職員一人ひとりの考え方や状況把握など、働きやすい環境作りに活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況を把握している。各スタッフがやりがいを持ち仕事にとりくめるよう、スタッフの特性を踏まえて、役割を決めたりしている。例としては、花の好きなスタッフには、花壇やプランターの整備や維持をお願いしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で実施している 内部研修にはたくさんの方が参加できるよう、事前に年間計画表を掲示して、具体的な研修内容を告知したり、開催日程を明確にすることで、シフト調整を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度より、他法人の研修に、管理者およびリーダーが参加できるシステムをつくりました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時には、ご本人と直接お会いして話を傾聴していますが、ほとんどが 帰宅することを要望として話をされます。ご本人の話を傾聴し、否定も肯定もせず、傾聴することに徹しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族やご本人を取り巻く相談者からの話は十分に時間をとり傾聴しています。実際、傾聴することで、自宅での生活を継続されている方もいらっしゃいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の話を傾聴し、入居のみならず、在宅生活を継続して頂くことを提案し、担当ケアマネジャーに、家族と話し合った内容を伝えることがありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員により、差異があります。ケアを提供する側としての意識が強いスタッフが多い中、スタッフ自身が、お客様との関わりを楽しんでいるかたもいらっしゃいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアする内容について、ご家族にご協力をいただくことは実施しています。ただ、ご家族の負担にならないよう、配慮することを注意しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族から頂く情報をもとに、今まで培ってきた関係性の継続は支援していますが、逆にご家族からの希望により、今まで住んでいた隣人との関係性を、継続することで、ご本人が混乱するとの理由により、つながりなかつた事例があります。	家族や友人の面会を歓迎しています。20時を過ぎる場合も柔軟に対応しています。知人の面会に関し、本人の負担が大きくなると判断した場合は、家族と話し合いながら適切に対応しています。定期的に自宅に戻る、墓参りをする、などは家族の協力を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性も踏まえ、どちらの利用者も孤立しないよう、仲介するように、職員間で共有しています。また、スタッフが利用者とは丁寧に対話することを、他利用者が見ていることを意識するよう、指導しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了された方がおりません。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思い（主に、帰宅願望）について、把握しているが、実現することは困難なことが多く、傾聴することで、ご本人の思いを共有しています。	利用者の何気ないつぶやき、会話から得た本音などは「つぶやきノート」に記載したり、「お客様の声」として掲示したり、ケアプランへの反映や、イベントなどに活かしています。帰宅願望については本人の思いに寄り添いながら日々対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人が話すこと、ご家族が話すこと。両方の思いや考え方を把握するように努めています。ご家族との関係性が崩れないよう、配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	基本的には、ご本人の過ごしたいように、生活支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1回のミーティングにおいて、ケアプランの評価をしたり、新たな課題を抽出し共有している。ご家族との意見交換は、計画作成者および管理者が行っています。	ケアプランには、本人・家族の意向を反映し、個別の状況に応じて短期、長期の目標設定をしています。医師の意見や職員の気づきもプランに反映しています。毎月のミーティングでモニタリングをし、期間ごとに見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録に、スタッフが記入をしている。記録内容は、すべてのスタッフが読むことで共有している。またケア記録に記入できないことは、連絡ノートを活用し、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院について、ご家族の意向を確認し、家族で対応するのか、スタッフで対応するかを相談し実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の発掘が不十分な部分もあり、協同するところまで至っていないのが現状です		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科および歯科診療は協力医療機関で対応しています。ご本人の体調により状況に応じて、皮膚科の往診医療につなげたり、婦人科の受診につなげたりしています。	入居と共に、近隣の協力医療機関をかかりつけ医としています。月2回内科医師・看護師・薬剤師が一緒の訪問診療があり、歯科は随時（月1～3回）訪問診療があります。他診療科に通院する場合は家族対応ですが、場合により必要な支援をしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所内に看護職はおりませんが、協力医療機関の看護師と、介護職員のやり取りは、急ぎの時は電話、それ以外の時は、faxにて連絡し、協働しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をした実績はありませんが、入院することで、環境変化が著しく生じますので、ご本人の精神的不安が大きくなることが予想されますので、早め早めの、体調低下について、協力医療機関と連携するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、終末期及び急変時の延命医療に関する同意書について説明をしています。	契約時に、「延命医療に関する同意書」、「重度化した場合の事業所の対応」などを家族に説明しています。看取りの指針があります。開設2年目で、看取りをした事例はありませんが、医療機関、同一法人系列施設とも連携し、対応することになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えての訓練は定期的には実施しておりません		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行いました。1回目は火災を想定し、2回目は地震を想定して実施しました。	昨年度、地震と火災対応の避難訓練を、利用者も参加して実施しています。各居室内の家具・備品の位置などの安全チェックを行い、避難場所への安全な経路や行先の再確認をしています。備蓄品は飲料水、食料、介護・医療用品など3日分を用意しています。	夜間を想定した防災や避難訓練の実施も期待されます。また近隣の地域住民との連携協力の体制が、徐々に整えられることも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴やトイレ等、ご本人にとって、最もプライバシーと羞恥心が生じるケアについて、ご本人の気持ちを尊重するケアを心がけていますが、スタッフ全員が実施できているかは、課題が残ります。	人権の尊重やプライバシー保護については「行動の指針」に基づき、研修やミーティングで確認しています。管理者が助言する場合があります。業務優先とならないよう、職員は利用者一人ひとりを尊重し、性格や状況に応じた丁寧な対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的には、ご本人の意思を伺うようにしています。ご本人にとって、強制になるようなことは避けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の基本的流れはありますが、体調に合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の着たい衣類を着用して頂いています。気候等にそぐわない場合は、声掛けをして、適切な衣類を身に着けることができるようサポートをしています。髪の毛のカットについても、おしゃれが保てるよう、支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	時には、もやしのひげ根とりを、お手伝いして頂くこともあります。また、食後の食器拭きは、利用者様の意志により、お手伝いをして頂いています。	食材は外部の業者から毎日届き、職員が調理しています。行事食や季節も考慮した献立となっています。誕生日ケーキにキャンドルを立てて祝ったり、外食に出かけたりすることもあります。調理の下ごしらえ、テーブル拭き、片づけをする利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ほとんどの方が完食することが多いのですが、体調等により通常よりも摂取量が少ない時は、ケア記録に記載して、低栄養や脱水にならないように注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアをしていただくよう、声掛けをしています。また、歯科医より、口腔ケアを注視する方については、指示のもとサポートしています。例えば、歯間ブラシの使用等を支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁等が見られた場合、すぐに紙パンツ等を導入するのではなく、失禁パンツ等を試したりして、ご本人の精神的負担および経済的負担を考慮しています	自立度の高い利用者が多く、自分のペースでトイレに行っています。排泄チェック表は利用していませんが、日頃から排泄状況を把握しています。支援が必要な場合は、適切な声かけや誘導と共に、プライバシーに配慮することも大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による精神的不安が大きく、状況に応じては、医療機関にも相談することがあります。運動面では、毎日ラジオ体操実施後、歩行訓練を実施しています。また、朝食時にヨーグルトや牛乳を提供することがあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否をする方が散見されますので、その方の様子を見ながら声掛けをしたりタイミングを計り、入浴支援を行っています。	週2回入浴しています。浴槽は可動式で、身体状況に応じた対応が可能です。ゆっくり入ったり、シャワー浴など、各自のペースに合わせて対応しています。入浴を拒む場合には、無理に勧めず、時間をずらしたり、言葉かけを工夫したりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間時の睡眠がとれるよう、日中帯には、生活活動ができるように、レクリエーションや散歩等を取り入れています。また、ご本人にとって、安心できる会話をして、休んでいただけるように気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導のもと、個人の服薬管理は薬局のサポートを受けています。服薬時は、ご本人が飲み込むところまで、確認するようにしています。服薬している効果については、症状を記録して、関係医療機関に報告をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別にあった、楽しみごとを抽出したり実施することは、出来ていないと思います。塗り絵等、画一的な内容に多くの時間が使われています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の希望に沿った外出支援は実施できていないが、季節の花を観賞したり、気分転換を目的として、グループごとに外出する機会は設けています。	駐車場内の花壇の手入れや洗濯物干しで日常的に外気に触れる機会のほか、数人ずつ近隣の散歩や、本屋などへ買い物に行っています。地域の敬老会行事や町内会の祭りに参加しています。車で「花菜ガーデン」や「平塚総合公園」「平塚七夕祭り」などに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人や家族の希望により少額のお金を所持している方がいますが、ご自身のお財布からお金を支払う機会はありません。ホームでお預かりしているお金から、ご本人が希望される生活用品を購入することはあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話については、職員を介してお繋ぎすることはありますが、ご本人が直接、電話をかける機会は設けていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご本人やご家族の希望を反映して、家具やテレビ等を設置しています。共用空間においては、皆さんが気持ちよく使えるよう、清潔を維持したり、環境整備を行っています。	リビングや廊下の壁面には、季節や行事にちなんだ飾りや写真、利用者の作品を飾っています。ソファや、テーブルは利用者が使いやすいように配置しています。日中は、全員リビングに集まり、利用者同士や職員と会話をしたり、絵を描いたり、テレビを見たり、自由に過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに 2か所 ゆったりと座れるソファを置いて、思い思いに過ごせる場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、ご家族の了解のもとご本人のなじみのある寝具や家具等を入居時に持参して頂いています。また、地震時に、ケガがないように、避難訓練時に環境整備を実施しています。	エアコン・ベッド・カーテンは備えられています。家具や家電製品、装飾品は、使い慣れたものを自由に持ち込み、好みに応じて配置しています。整理整頓、衣類収納や掃除は本人が行ったり、支援が必要な場合は、職員と一緒に行うようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	開所時にトイレ近くの手すりが設置されていなかったため、追加として、手すりを増設してもらいました。夜間時のトイレ移動の際皆さん、使用して安全に移動して頂いています		

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアの掲げている理念そのものが 地域密着型を意識してつくられた理念です。会社理念は、ミーティングの前にスタッフ全員で唱和しています。時折、理念について、ミーティング内で、行動指針を取り上げて話をすることがあります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入している。回覧板等は、利用者様が興味を持ちそうな内容があれば、適宜、回覧をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	包括支援センターからの紹介や、通りすがりの方から、介護についての相談を、受けることが多くなってきています。また、地域の学校の生徒さんの職業体験の実習の場として、利用していただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年12月から開所しましたので、運営推進会議に、ご家族が参加する機会がありませんでした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	開所してわからないことが多く、平塚市役所の介護保険課の担当者の方には、運営について、色々と聞いたり、ご指導を受けたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠しておりません。フロア入り口は施錠していますが、利用者様がご自分で開けることが出来るタイプのものであります。センサー等は使用しておりません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束および虐待については、定期的にミーティングにて学習する機会を設けている。また、内部研修においても、毎年取り込んで、学びの機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所の職員が学んだり、それらを活用できる仕組みは作っておりません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をとり説明をして、納得していただいた後、署名をいただいている。また、説明後、「何か補足事項はありませんか?」「わかりづらいところはありますか?」と聞いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回実施するアンケートですが、こちらのご家族にはまだ実施しておりません。今年の夏ごろ、実施予定です。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ミーティングを実施して、職員の意見を聞いたりしている。また業務改善については、フォーマットを作成し、誰もが気軽に、記入しやすいようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況を把握している。各スタッフがやりがいを持ち仕事にとりくめるよう、スタッフの特性を踏まえて、役割を決めたりしている。例としては、花の好きなスタッフには、花壇やプランターの整備や維持をお願いしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で実施している 内部研修にはたくさんの方が参加できるよう、事前に年間計画表を掲示して、具体的な研修内容を告知したり、開催日程を明確にすることで、シフト調整を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度より、他法人の研修に、管理者およびリーダーが参加できるシステムをつくりました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時には、ご本人と直接お会いして話を傾聴していますが、ほとんどが 帰宅することを要望として話をされます。ご本人の話を傾聴し、否定も肯定もせず、傾聴することに徹しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族やご本人を取り巻く相談者からの話は十分に時間をとり傾聴しています。実際、傾聴することで、自宅での生活を継続されている方もいらっしゃいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の話を傾聴し、入居のみならず、在宅生活を継続して頂くことを提案し、担当ケアマネジャーに、家族と話し合った内容を伝えることがありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員により、差異があります。ケアを提供する側としての意識が強いスタッフが多い中、スタッフ自身が、お客様との関わりを楽しんでいるかたもいらっしゃいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアする内容について、ご家族にご協力をいただくことは実施しています。ただ、ご家族の負担にならないよう、配慮することを注意しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族から頂く情報をもとに、今まで培ってきた関係性の継続は支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性も踏まえ、どちらの利用者も孤立しないよう、仲介するように、職員間で共有しています。また、スタッフが利用者とは丁寧に対話することを、他利用者が見ていることを意識するよう、指導しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了された方いましたが、退去後に病院にお見舞いに伺いご家族の思いを傾聴させて頂きました。また、急性期の病院だったので転院する必要があり、相談にのることがありました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思い（主に、帰宅願望）について、把握しているが、実現することは困難なことが多く、傾聴することで、ご本人の思いを共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人が話すこと、ご家族が話すこと。両方の思いや考え方を把握するように努めています。ご家族との関係性が崩れないよう、配慮しています。ご家族との関係性により入居された方がいますので、注意しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	基本的には、ご本人の過ごしたいように、生活支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1回のミーティングにおいて、ケアプランの評価をしたり、新たな課題を抽出し共有している。ご家族との意見交換は、計画作成者が実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録に、スタッフが記入をしている。記録内容は、すべてのスタッフが読むことで共有している。またケア記録に記入できないことは、連絡ノートを活用し、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院について、ご家族の意向を確認し、家族で対応するのか、スタッフで対応するかを相談し実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の発掘が不十分な部分もあり、協同するところまで至っていないのが現状です		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科および歯科診療は協力医療機関で対応しています。ご本人の体調により状況に応じて、皮膚科の往診医療につなげたり、精神科の受診につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所内に看護職はおりませんが、協力医療機関の看護師と、介護職員のやり取りは、急ぎの時は電話、それ以外の時は、faxにて連絡し、協働しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調低下時には早め早めの連絡を関係医療機関に連携するようにしました。入院時の対応も比較的速やかに対応できました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、終末期及び急変時の延命医療に関する同意書について説明をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えての訓練は定期的実施しておりません		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	12月から開所しましたので、31年3月に地震を想定した訓練を実施しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴やトイレ等、ご本人にとって、最もプライバシーと羞恥心が生じるケアについて、ご本人の気持ちを尊重するケアを心がけていますが、スタッフ全員が実施できているかは、課題が残ります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的には、ご本人の意思を伺うようにしています。ご本人にとって、強制になるようなことは避けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の基本的流れはありますが、体調に合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の着たい衣類を着用して頂いています。気候等にそぐわない場合は、声掛けをして、適切な衣類を身に着けることができるようサポートをしています。髪の毛のカットについても、おしゃれが保てるよう、支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時には、もやしのひげ根とりを、お手伝いして頂くこともあります。また、食後の食器洗いや食器拭きを一緒に実施して下さる方がいらっしゃいます。ご本人も、家事をすることを好まれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ほとんどの方が完食することが多いのですが、体調等により通常よりも摂取量が少ない時は、ケア記録に記載して、低栄養や脱水にならないように注意しています。また、義歯調整の方がいるので、食物の固さには注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアをしていただくよう、声掛けをしています。また、歯科医より、口腔ケアを注視する方については、指示のもとサポートしています。歯茎に炎症を起こしている方がいるので、医師の指示のもと薬を塗布しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁等が見られた場合、ご本人の羞恥心を鑑みて、汚染した紙パンツを、使い捨てパンツという言葉に置き換えて、交換して頂くことがあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による精神的不安が大きく、状況に応じては、医療機関にも相談することがあります。運動面では、毎日ラジオ体操実施後、歩行訓練を実施しています。また、朝食時にヨーグルトや牛乳。乳製品が苦手な方にはジュースを提供することがあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否をする方が散見されますので、その方の様子を見ながら声掛けをしたりタイミングを計り、入浴支援を行っています。状況に応じて、足浴や清拭等を実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間時の睡眠がとれるよう、日中帯には、生活活動ができるように、レクリエーションや散歩等を取り入れています。また、ご本人にとって、安心できる会話をし、休んでいただけるように気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導のもと、個人の服薬管理は薬局のサポートを受けています。服薬時は、ご本人が飲み込むところまで、確認するようにしています。服薬している効果については、症状を記録して、関係医療機関に報告をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別にあった、楽しみごとを抽出したり実施することは、出来ていないと思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の希望に沿った外出支援は実施できていないが、季節の花を観賞したり、気分転換を目的として、グループごとに外出する機会は設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人や家族の希望により少額のお金を所持している方がいますが、ご自身のお財布からお金を支払う機会はありません。ホームでお預かりしているお金から、ご本人が希望される生活用品を購入することはあります。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話については、職員を介してお繋ぎすることはありますが、ご本人が直接、電話をかける機会は設けていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご本人やご家族の希望を反映して、家具やテレビ等を設置しています。共用空間においては、皆さんが気持ちよく使えるよう、清潔を維持したり、環境整備を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに1か所、ソファを設置して、のんびりと過ごせる空間を作っています。時に居眠りをしている方もいらっしゃいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、ご家族の了解のもとご本人のなじみのある寝具や家具等を入居時に持参して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	開所時にトイレ近くの手すりが設置されていなかったため、追加として、手すりを増設してもらいました。夜間時のトイレ移動の際皆さん、使用して安全に移動して頂いています		

2019年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム幸せふくろう万田

作成日：令和元年7月4日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ	避難訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練は実施していない。夜勤者一人で利用者9人を、どのようにしたら、効率よく安全に移動できるか？	夜間想定をして、避難訓練を実施する	今年度中に「夜間想定」をした避難訓練を実施する。予定としては、10月と2月に実施する。	8ヶ月
2		備蓄品の部分において、ヘルメットやカセット式コンロが常備されていなかった。	常備する方向で検討する	今年度中に、ヘルメット20個、カセットコンロ2台。カセットコンロ用ボンベ6本、準備する。	9ヶ月
3		運営推進会議において、参加者がなかなか集まることができない現状がある。 (民生委員さん、自治会役員さん等)	議事録等は、今までどおり、参加できなかった方へも配布させていただく。 また、運営推進会議のお知らせ文も同様、継続して送らせていただく。交番が近くにあるので、今後、案内文をお知らせする。	今年度の運営推進会議が、残り4回あるので、次回の運営推進会議（8月予定）の際、近くの交番にお知らせ文を届けて、参加していただけるよう依頼する。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月